

中城御殿御普請板図の翻刻

新垣裕之*1 伊良部一史*2 上江洲安亨*3 新里涼子*4

はじめに

当財団所蔵の森政三コレクション中に*5、戦前の中城御殿が撮影されたモノクロ写真が封筒に入ったかたちで保管されていた。内容は、中城御殿の御広間、御書院、庭園や庭園にあった石灯籠等が撮影された写真があり、31点残されていた。

その写真群の中に龍潭前に中城御殿が移転した当初の普請落成した時の図面と思われる画像が写っていたのである。本稿では、発見された写真に写っている板の図面に記述された文字記録の翻刻を行い、これまで図面等の記録史料が残されておらず、古老からのヒアリング情報しか残されていなかった中城御殿の間取を記録した「中城御殿御普請板図」の内容について紹介したい*6。

1. 撮影された図面の概要

森政三コレクションの中城御殿古写真 31 点の内、図面らしき記録が撮影されている写真は 7 点ある。撮影された板の図面は、2 種類あり、おそらく同じ板材の表と裏ではないかと思われる。表面らしき写真は 4 枚あり（写真 1）、裏面らしき写真は 3 枚となっている（写真 2）。写し出された画像から、2 枚の杉のような針葉樹系の板が接がれていて上部に取っ手がついており、中城御殿の屋内と思われる場所で撮影されたようである。おそらく、昭和初期に森政三が来沖時に撮影したものと思われる。板図が撮影された表面と思われる写真を拡大して観察すると（図 1）、「此図表御普請相済候付引渡申候以上 中城御殿普請係」と記述され、11 名（親雲上 9 名、親方 1 名、按司 1 名）の連名となっている。また時期も「同治拾三（明治 7、1874）年甲戌三月」と明記されている。

この記述から、板図は、同治 13 年 3 月に中城御殿御普請係が中城御殿大親衆に新造した中城御殿を引き渡す時に記録されたものと思われる。したがって、本板図の名称も「中城御殿御普請板図」とした。

2. 板図に墨書された中城御殿

先述の引き渡しのコメントと中城御殿御普請係の連名、同治 13 年と時期を記録した部分を表面と考え、記述内容をみると（図 1）、板図の下方が南面のように「本御門」とあり、その両脇に「脇御門」と記述されている。おそらく龍潭に面した側の屋敷正門にあたる部分なのであろう。裏面と思われる写真をみると、一番下方を南側と考え、写真右側を東方と考えると、写真下方で東西に走る廊下があり、廊下上方で建物の右側に御書院と

* 1 書肆あらかき代表

* 2 株式会社国建建築設計部

* 3 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 係長

* 4 株式会社国建地域計画部

* 5 森政三（1895～1981）は、昭和 11（1936）年の守礼門（旧国宝）修理や、戦後、焼失した園比屋武御嶽石門や守礼門の復元に携わった文部省技官。

本コレクションは、森政三が所蔵していた首里城や沖縄の文化財及び県外の文化財建造物に関連する図面・写真・拓本・修理資料等の資料群のこと。平成 13 年に首里城公園管理センターが収集した。

あり、その次に九畳敷という部屋があり、南北縦に走る廊下の次に中御庭が続いている。この板図の表面と裏面の記述の接合部が、この東西を走る廊下のようなものである。そして裏面の上方の中央部には、この図面で3箇所ある中御庭の内、最も大きい中御庭で、その上方には石階段のような図があり、建物の基壇を表現しているようである。おそらく御寝廟殿の基壇と思われるが、ここで建物の内装に関する記述は途切れている。御寝廟殿より後方は首里城で言えば御内原のような空間であったため、本板図に記録が残されていないものと考えられる。翻刻した図1は、板図の表面と裏面を接合したかたちとして紹介している。

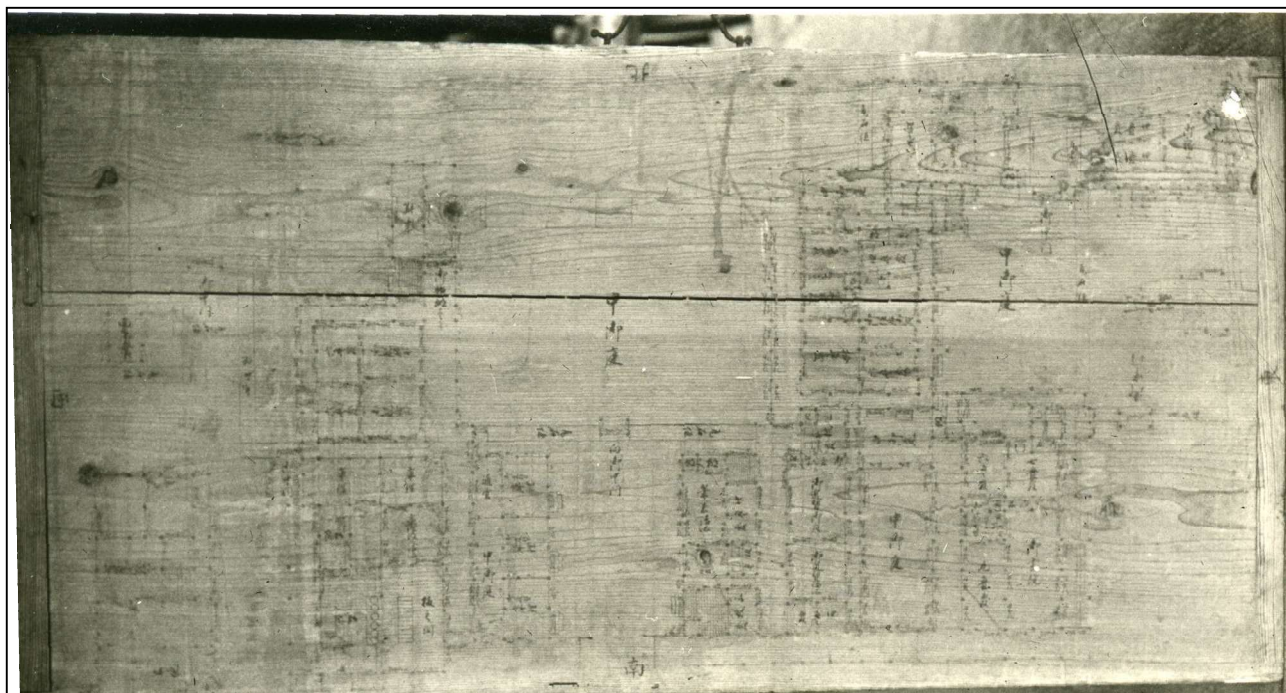
本板図の記述内容から、後に新御殿といわれた建物は、記述されておらず、本板図では御配膳所と六畳敷とされた部屋がそれぞれ連なっている部分として記述されており、本板図製作時には新御殿は無かった建物と考えられる。同治13年と時期が明記されていることもあるが、新御殿は、文字通り新しい御殿で、同治13年以降、中城御殿が沖縄戦で焼失する昭和20（1945）年までの間に後で改築が行われて建造された建物であると考えられる。したがって、記述された図面の上からも、本板図は移転当初の中城御殿の間取を示したものと考えられる。

おわりに

今回発見された「中城御殿御普請板図」の写真画像は、琉球王国時代の中城御殿に関する現在、唯一の文字記録史料が撮影されたものである。中城御殿は、これまで古老へのヒアリング調査による情報が収集されていたが、中城御殿が普請落成した当時の同時代史料が発見されたことにより、にわかに正確な間取に関する情報が得られたのである。今後、今回翻刻した板図の内容がさらに分析され中城御殿の建物内の詳細な内容が判明していくことに期待したいと思う。

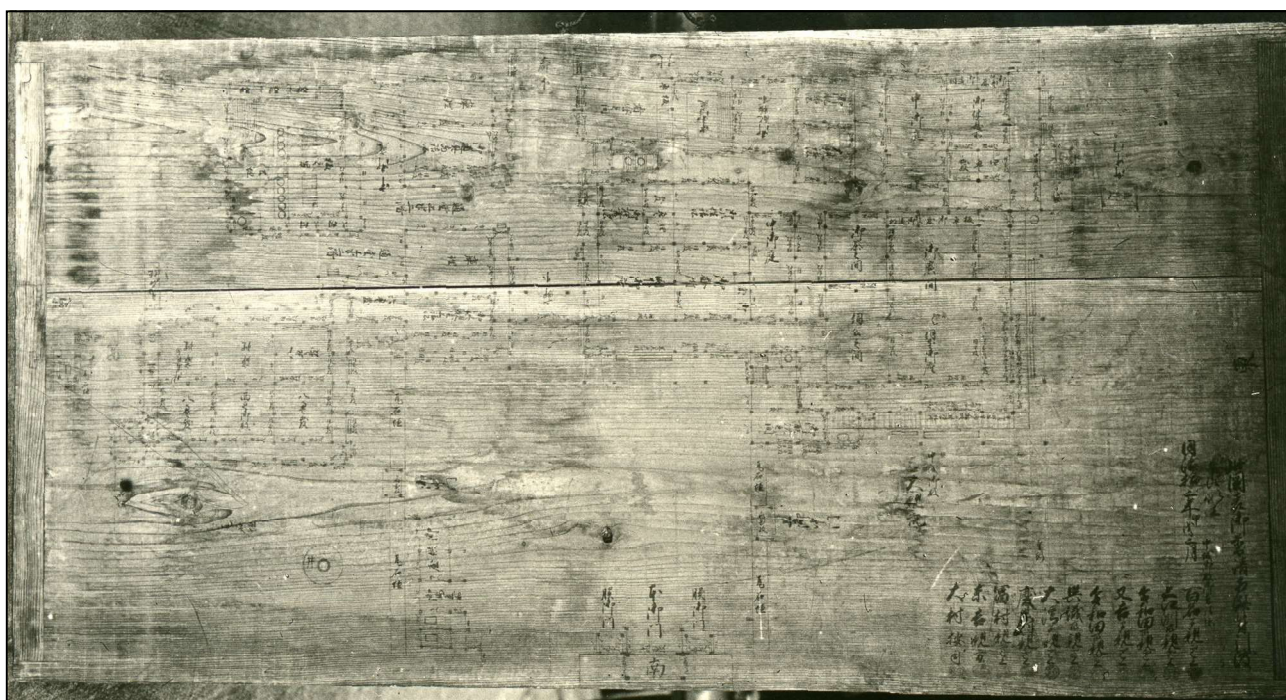
*6 翻刻は、新垣裕之、伊良部一史、新里涼子を中心に実施し、別途上江洲安亨が行った翻刻内容と照合した。照合後、首里城復元に携わった研究者を中心とした首里城研究会で翻刻内容を報告し、不明文字の指摘を行ってもらった。研究会で翻刻内容の報告を許諾した高良倉吉会長と、不明文字について指摘していただいた首里城研究会のメンバーに記して感謝の意を示したい。

・中城御殿御普請板図 写真



中城御殿御普請板図 裏面

板図画像下方に「南」とあり、右下方に「御書院」とある。表面に続く屋敷の間取と思われる。北側は御寝廟殿の基壇で途切れている。



中城御殿御普請板図 表面

板図画像下方に「南」とあり、「本御門」等の記述がある。龍潭に面した屋敷前面と思われる。